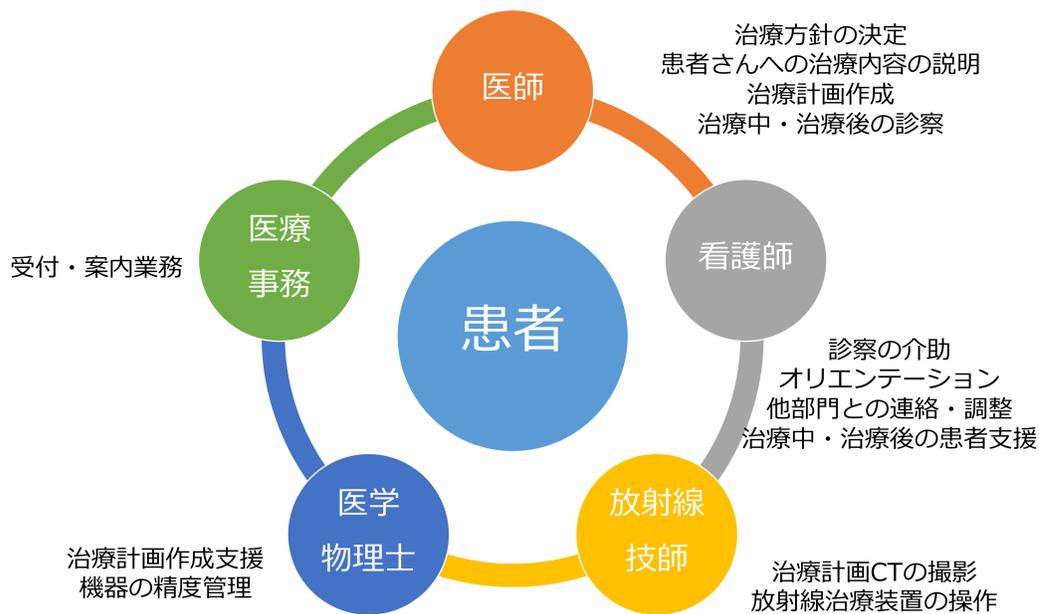
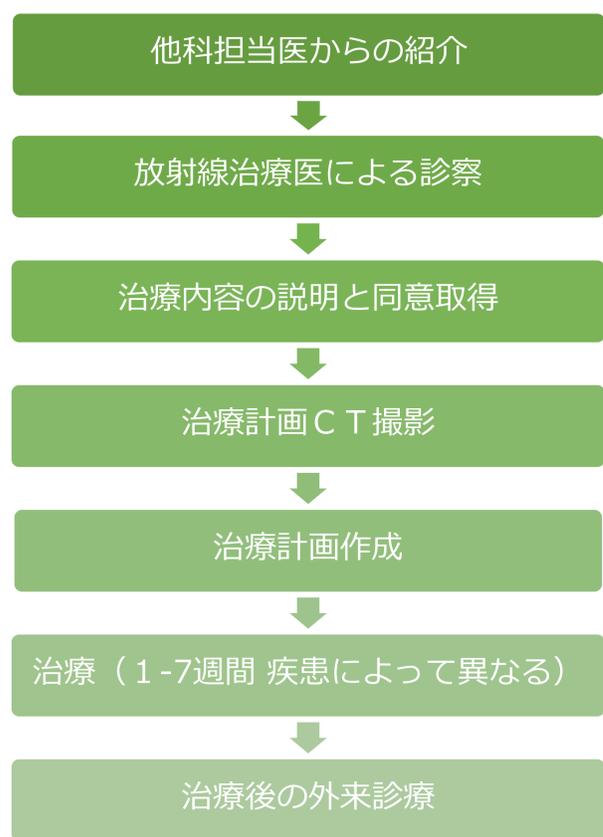


放射線治療には医師・看護師・診療放射線技師・医学物理士・医療事務など様々な職種が関与する。当院ではX線治療・小線源治療・重粒子線治療を行っており、それぞれの治療種の特徴により業務が異なる。そのため、各治療において様々な側面から定期的な多職種カンファレンスを行ない、安全・安心な治療の実施に努めている。今回その取り組みについて紹介する。

放射線治療に関わるスタッフ



放射線治療のワークフロー



当院での放射線治療の種類と特徴

X線治療: 幅広い疾患・目的で適応になるため、(根治を目指す治療から症状改善を目指す緩和治療まで) 患者さんの状態に応じた柔軟な対応が求められる。

小線源治療: 主に婦人科腫瘍に対して、腫瘍近くに器具を挿入して局所に絞った治療を行う。手技に伴い鎮静を行うため、X線治療・重粒子線治療よりも治療中の留意点が多い。

重粒子線治療: X線治療が効きづらい、当てづらい特定の疾患に関して適応となる。治療施設が病院とは別棟になる。施設数が少ないため全国から患者さんが集まる。

多職種カンファレンスの種類と役割

治療計画討議: 毎日 (月・水:X線、火・木・金:重粒子)
出席: 医師・看護師・放射線技師・医学物理士



放射線治療を行う予定の患者さんに、その治療方針が適切かどうか、作成された治療計画が適切かどうか、治療が安全に行える状態かどうかを議論する。

運用に関する会議: 毎月1回 (X線・小線源・重粒子で別途)
出席: 医師・看護師・放射線技師・医学物理士・医療事務



各部門でのインシデントの報告や業務上問題となっていたり、効率化が図れる点について改善案などを議論する。

機器管理に関する会議: 2週に1回
出席: 放射線技師・医学物理士



放射線診断・治療装置、治療計画装置機器のエラーや精度管理について議論する。

緊急・災害対応に関する会議: 2月に1回 (重粒子)
出席: 医師・看護師・放射線技師・医学物理士



重粒子線治療施設は病院から離れているため、治療施設内での急変時・災害発生時の対応についての訓練や体制整備について議論する。

まとめと今後の課題

適切な治療方針・治療計画
患者さんの綿密な状態把握
多職種から意見が出る風土作り
機器の緻密な精度管理
危機対応への備え

安心・安全な
放射線治療

- 放射線治療には様々な職種が関与する。
- 放射線治療種別に機器の特性もあり適応となる疾患が異なり、それに伴い業務も異なる
- それぞれの治療種別に情報共有が必要な部分は多職種カンファレンスを活用している。
- 今後は各治療種を横断的に連携できるカンファレンスのあり方を検討していきたい。

放射線治療を受ける皆様が、安心して治療・検査を受けていただけるよう、多職種スタッフで連携・協力し、安全な医療の提供を心がけていきます。